令和４年度多古町目指す子ども像自己評価の結果概要について

多古町教育委員会学校教育課

1　調査対象者　　小学校第５学年・第６学年児童及びその保護者
　　中学校第１学年・第２学年・第３学年生徒及びその保護者
　　各小中学校教職員

2　調査内容　　『生活習慣』『家庭学習』『思いやり』『地域行事等』の４項目

3　調査結果

（1）小学校児童

o　『生活習慣』、『学習への取組』、『思いやり』の３項目については「よくできている」「大体できている」との評価（以降「肯定的評価」）が８割を超えていた。特にどの学年においても、『思いやり』の評価が４項目中一番高くみられた。

（2）小学校保護者

o　『良好な人間関係作り』の項目では、肯定的評価が９割を超え、児童（思いやり）と同様に４項目中最も高い割合が見られる。生活習慣については、肯定的評価は両学年ともに概ね８割となり、家庭学習については６割前後であった。

（3）小学校教職員

o　『生活習慣』、『授業作り』、『思いやり』の３項目については、肯定的評価が９割を超える高い割合が見られた。『地域の特性を生かした指導』における肯定的評価は概ね８割だった。

（4）中学校生徒

o　『学習への取組』については肯定的評価が全学年概ね８割となり、『思いやり』についてはどの学年も９割を超えている。『生活習慣』においては、肯定的評価が全学年概ね８割となった。

（5）中学校保護者

o　『生活習慣』における肯定的評価は、上の学年で低く見られ、『家庭学習』については、下の学年で低い結果となった。『良好な人間関係作り』については、全ての学年で９割を超えている。

（6）中学校教職員

o　『生活習慣』『思いやり』『地域の特性を生かした指導』の３項目については、肯定的評価が９割を超える高い割合が見られた。『授業作り』における肯定的評価は概ね８割だった。

4　考察

o　生活習慣についての意識は、中学校において低下する傾向が見られる。

o　家庭学習の積極的な取組みについては、児童生徒と保護者との間で意識の差が見られる。

o　周りへの思いやりをもって接している児童生徒が多い。保護者からも、子ども達は良好な人間関係を作りながら学校生活を送っているといった意識が見られる。

o　『地域行事への参加』に係る低い評価については、コロナ禍による行事の縮削減などの影響が考えられる。

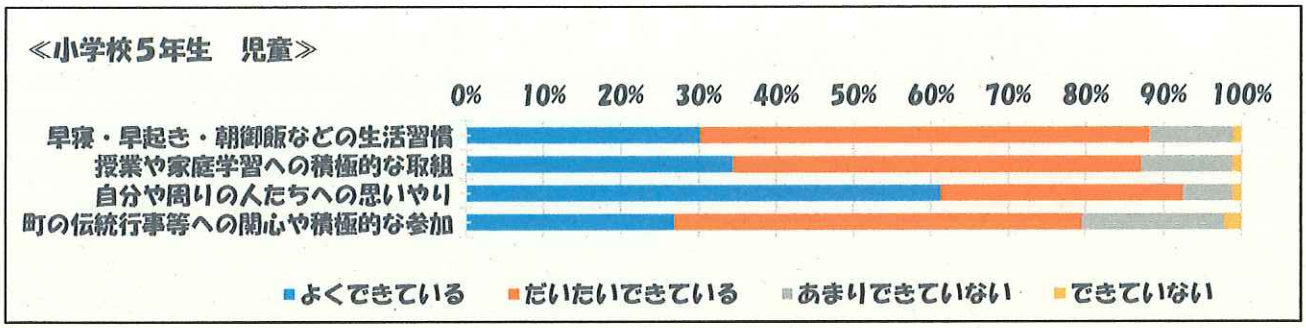
5　今後の取組

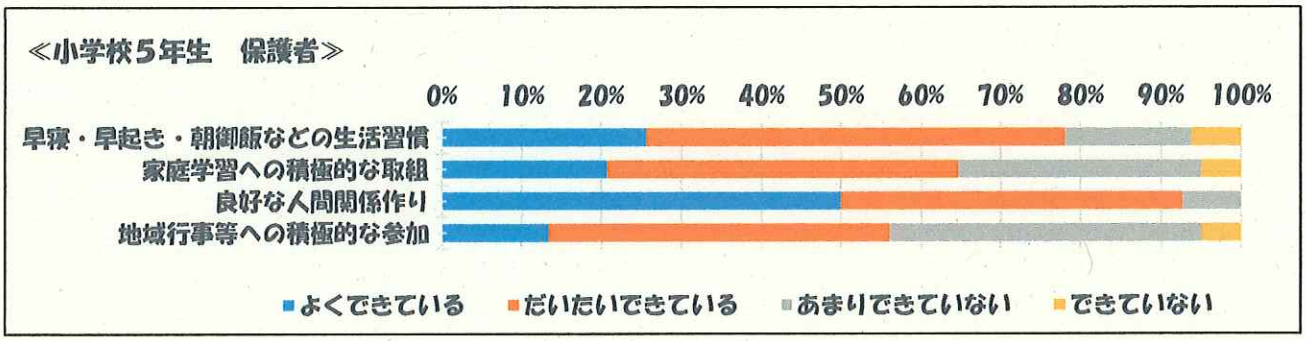
◎　生活習慣の確立や家庭学習の習慣化に向けて学校と家庭が連携し、引き続き充実した教育活動の基盤作りを推進する。

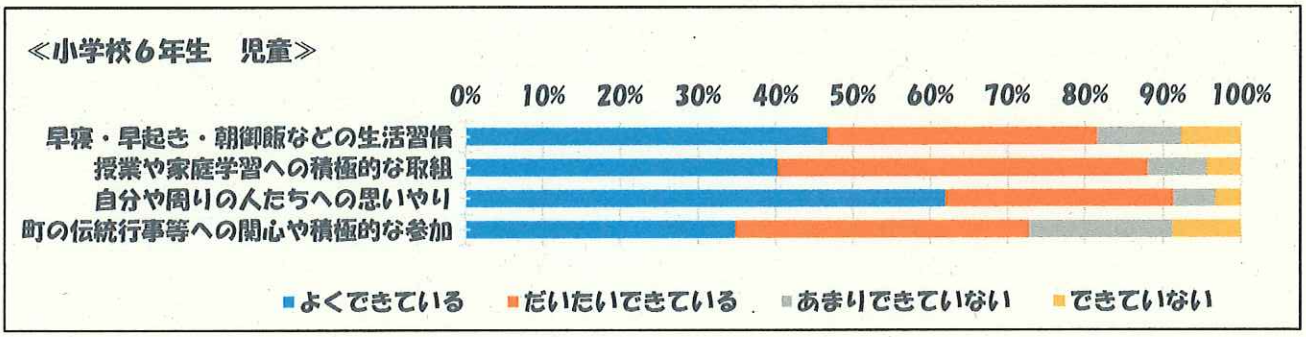
◎　多古町目指す子ども像の学年別共通指導事項において、小中連携を意識した教育活動を推進する。

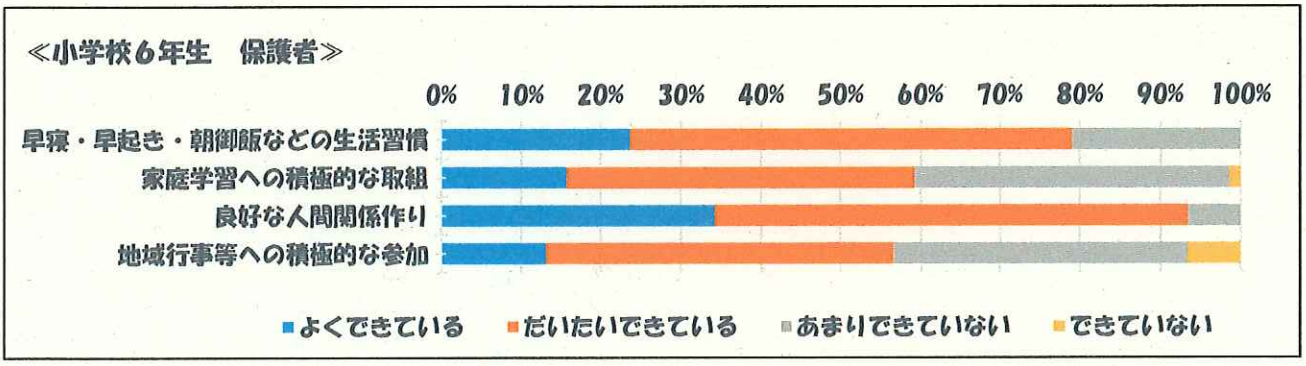
◎　地域との連携を深め、社会に開かれた教育課程を一層推進する。

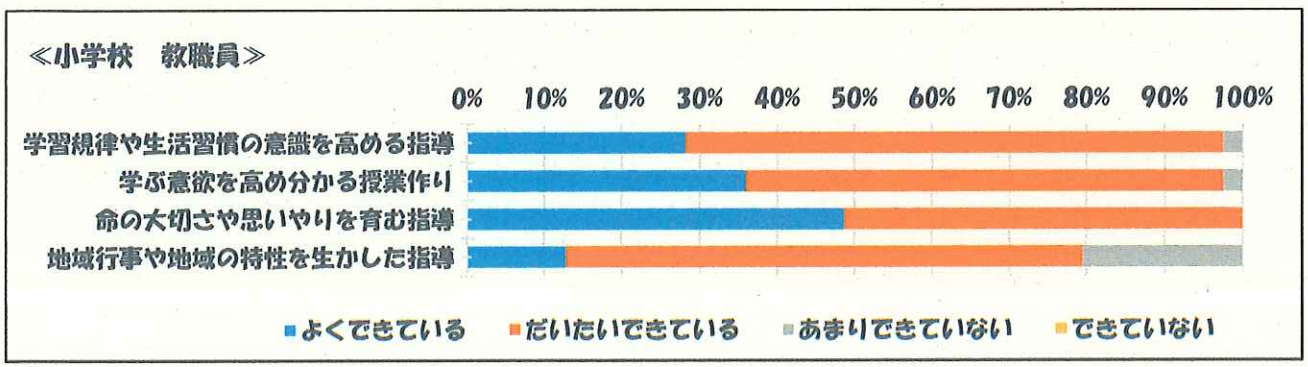
【多古町目指す子ども像自己評価（令和４年度）】



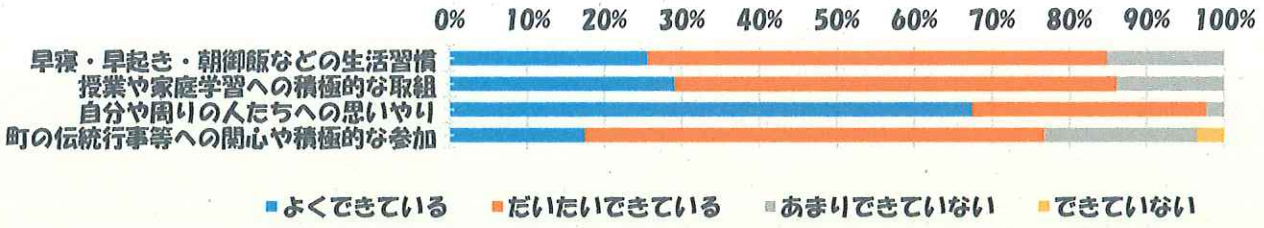




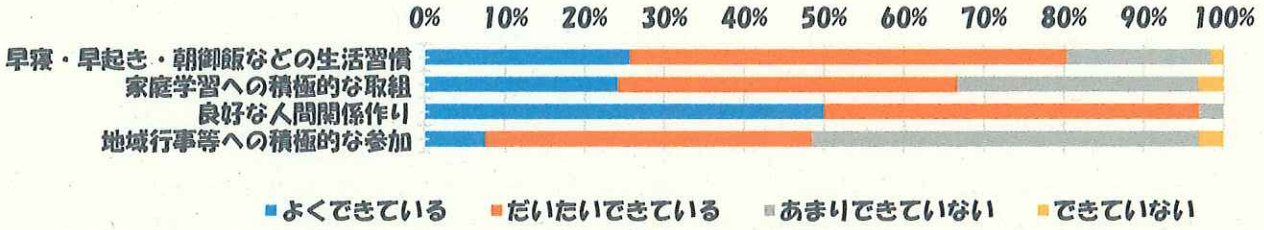




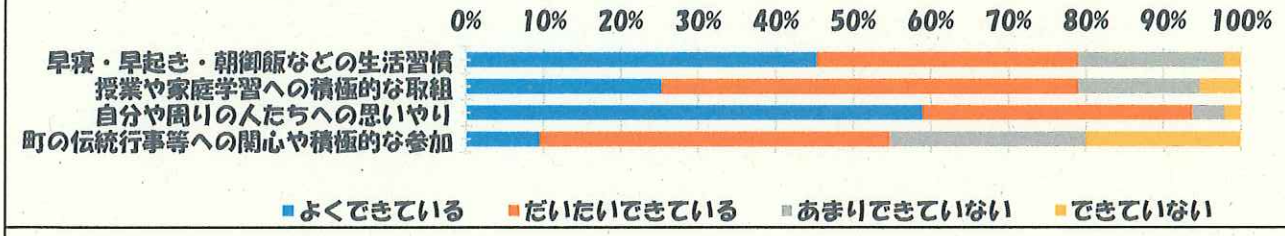
≪中学校１年生　生徒≫



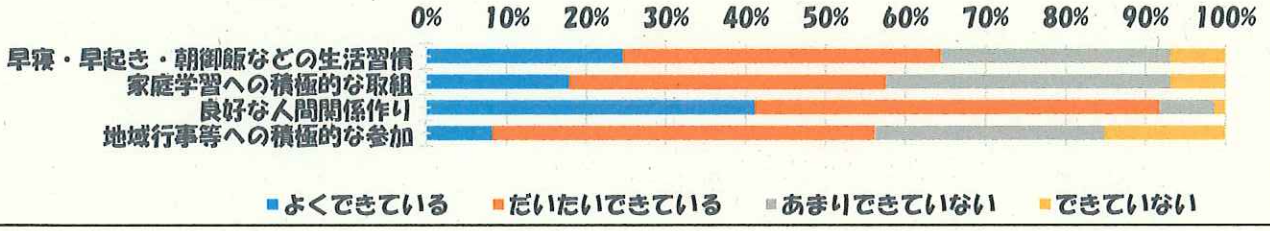
≪中学校１年生　保護者≫



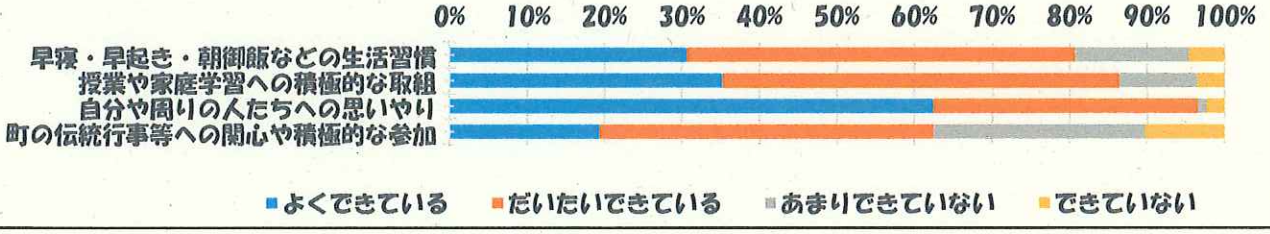
≪中学校２年生　生徒≫



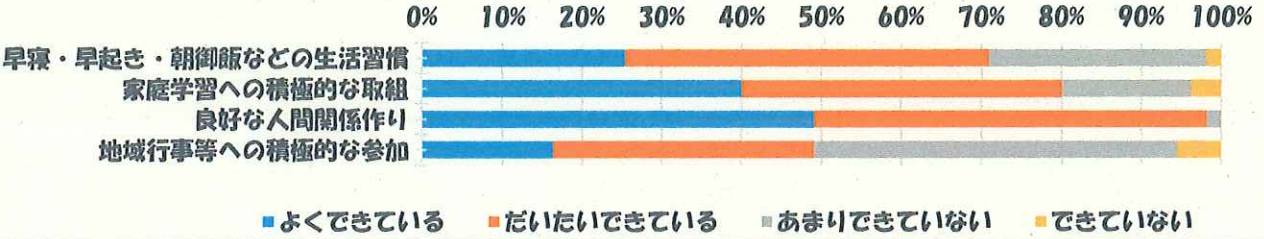
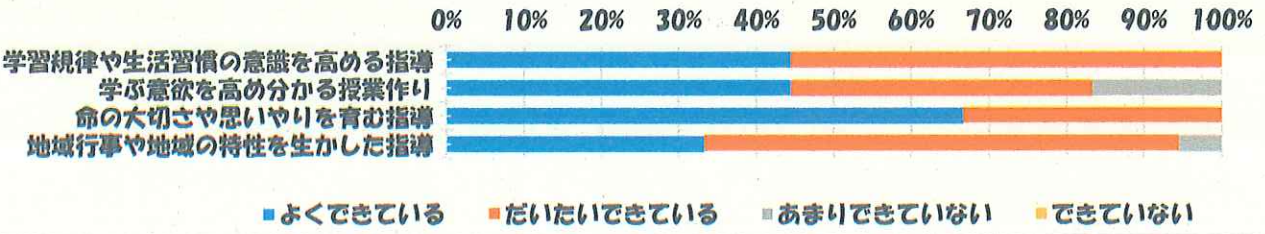
≪中学校２年生　保護者≫



≪中学校３年生　生徒≫



≪中学校３年生　保護者≫



≪中学校　教職員≫